

## 第2回推進委員会

第2回の推進委員会では、これまでの活動や経験を通じて感じている、廿日市市の地域福祉における現状や問題点を出しあい、そこから目指したい姿に近づけていくため、問題解決に向けた取組について議論しました。



### プログラム

1. はじめに
2. 第1回委員会の振り返り
3. 議論

**まちの地域福祉“ここが気になる”を出し合ってみよう！**

- (1) オリエンテーション  
今日の目標、タイムスケジュール確認
  - (2) グループワーク  
ア. 地域福祉の現状や問題点を出しあい、整理する  
イ. 問題解決に向けての取組を考える
4. 次回に向けて
  5. おわりに



### 開催概要

#### 日時

平成27年 **7月27日**(水) 18:30~20:45

#### 会場

市役所7階 会議室

#### 出席者

22人

(委員:11人、市職員:6人、

ひろしまジン大学:5人) ※聴講者 5人

### はじめに

廿日市市福祉総務課長 藤井健二

今回の策定をきっかけにこれからの「地域の福祉」(=暮らしの基盤づくり)について、委員の皆さんと一緒に考え話し合うことや実践、仕組みづくりを推進していくことを大切にしたいと考えています。議論のテーマは、計画づくりに関連したものにはなりますが、委員の皆さんが所属されている主体での立場や経験、活動における地域とのかかわりなどを踏まえて、存分に議論をしていただきたいと思っています。

この場での議論が、委員の皆さん同士のつながり、行政、社会福祉協議会との日常的な連携、日々の活動や地域における



課題解決につながっていくことを目指したいと考えています。検討の流れや委員会の回数などスケジュールについても再整理しました。計画書の作成については、議論の中から計画に必要な素材の抽出、組み立て、文章化などを事務局で行うこととしています。

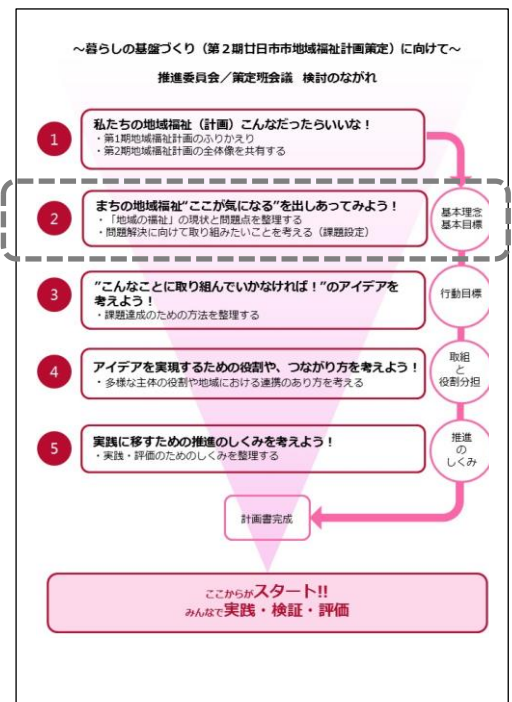
## 議論:オリエンテーション

第1回会議の内容を振り返った後、グループワークに入る前のオリエンテーションとして、推進委員会で議論する「5つのステップ」について確認しました。

今回は「まちの地域福祉“ここが気になる”を出しあってみよう！」をテーマに、

- ・「地域の福祉」の現状と問題点を整理する
- ・問題解決に向けて取り組みたいことを考える

の2つを目標に3つのグループにわかれて議論しました。



## 議論:グループワーク

A～Cの3つのグループに分かれて、次の2つのパートで議論しました。

### グループワーク①

「まちの地域福祉“ここが気になる”」というキーワードのもとに、委員のみなさんそれぞれの立場（所属）や活動を通じて感じている、現状の問題点を出しあい、ふせんと模造紙に記録していきました。

### グループワーク②

グループワーク①で出された問題点を解決するためには、どのようなことに取り組んでいく必要があるかを議論しました。

2つのワークのどちらにおいても、委員の皆さんの活動を取り巻いているさまざまな視点からの問題点が出され、「お互いを知る」という点でも意義のある議論となりました。また、課題を解決するための取組については、それぞれの組織や立場を越えた連携や日常的なつながり、人材の育成など3つのグループが共通した内容で話し合われました。



グループごとに議論した模造紙

～「共有タイム」で全体でシェアした内容の一部を紹介します～

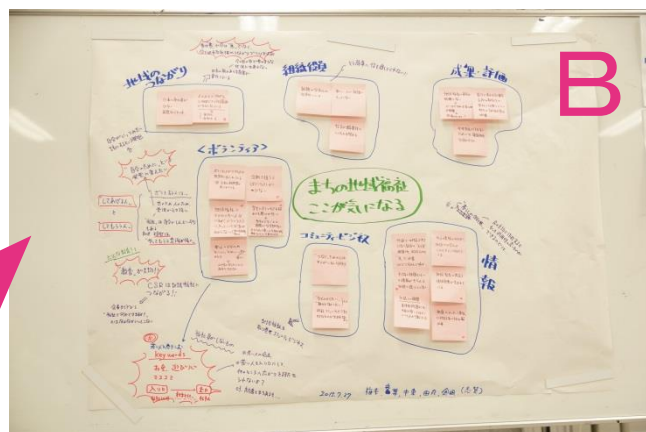


●市内にはNPO法人のような動きやすい(柔軟に活動できる)組織が少ないです。ボランティアも個々で動いている人たちが多く、それでは限界があります。例えば地域づくりを行うNPOができて、町内会・自治会にアプローチして新しい地域づくりを行うというような活動が充実していくことで、行政や社協だけでなく、もっとフレキシブルに動ける主体の数が増えていくのではないのでしょうか。

●そして、それらがいろんな分野でつながっていくことが必要です。例えば、「子育て」のテーマで考えたとき、関係している主体のネットワークが今はありません。つながることで、それぞれが抱える問題の解決の糸口が見えるのではないのでしょうか。

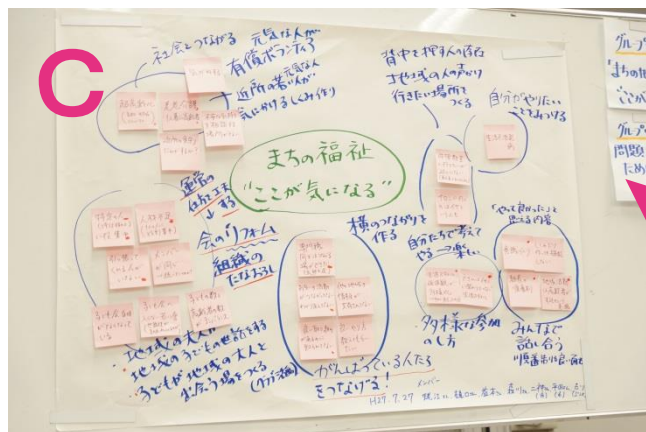
●学生は、社会の課題に対して無関心。ボランティアに対しても関心が低いです。「福祉」という視点で「人の役に立ちたい」という気持ちはまだ少ないようです。一方、地域づくりの現場では、活動に関わりたい気持ちのある人が結構いるのに、どう関わっていけばいいかわからないようです。これからは「発想の転換」が必要です。ボランティア活動も「してあげる」「してもらう」ではなく、「自分の介護予防のために」という視点や、学生の興味のあること(カッコいい、かわいいなど)が活動の参加につながるような入口をつくる、など考えていきたいです。

●昔から言われている「向こう三軒両隣」というつながり方、現代の状況でそういう関係性に戻れるかという難しい。今私たちが置かれている状況で必要なつながりを考えていくことが大切です。



●専門職(五師士会など)のつながりはできていますが、地域の中でのつながりがありません。例えば、地域で子育てを考えると、青少年の団体、PTA、子ども会などの連携がありません。「地域活動」は高齢者や退職した人、働いていない人がやるものだ、という意識があるように感じます。若い人もそういう思いを持っているので、活動に参加できていないのではないかと。価値観も多様化しているので、できれば他人に関わりたくないという考えを持っている人もたくさんいます。

●昔ながらの前例踏襲で活動していますが、運営の仕方を少し工夫する必要があります。地域の中の会(組織)のリフォーム、組織の棚卸しをしなくてはなりません。



今日は、どのグループもかなり共通した話だったように思います。

廿日市市は、本当に市民がよく動いています。しかし、そのわりには、それぞれの組織や活動団体がつながって何かやっているという姿が、もうひとつ見えてきません。ここをうまくみせることができるとういすね。組織や活動をもう少しつないでいく、というところが重要な課題ではないかと思いました。



私たちの生活スタイルや価値観が多様化し、この変化に対応して、もっと組織のあり方や、組織運営の仕方をリフォームしていくということが必要です。人々の意識や生活スタイルはかわってきているのに、組織の運営が旧態依然としたものだど、どうしてもそこに乖離が生じて、一部の人たちだけの組織や活動になってしまいがちです。どう組織の運営や活動の仕方をリフォームしていくか。これは全市的に取り組まなくてはならないテーマではないかと思えます。

私は、もう「みんな一緒に」の時代は終わったと思っています。それぞれの関心や領域にしたがって地域に関わっていく。そういう入口をみんなでもう少し工夫していくことが必要だと思えます。今、大事な時期を迎えていますね。これからの続きの議論の中で、知恵を出していきましょう。

「地域福祉」と言うのは、究極は「つながりの質」です。人と人とのつながり、組織と組織のつながり、活動と活動のつながりの質をどう担保していくか、だと思えます。

### 第3回委員会に出席した委員のみなさんから

～ 一部を紹介します ～

#### 「地域福祉」についての気づき・発見

- ・ 関わり方に知恵を出し合うことが大切と再確認
- ・ 地域の福祉を担うであろうコミュニティ、NPO、企業など 多様な主体との住み分けがポイントになってくると思う。
- ・ 社協の存在があまりにもマイナーで、改めてびっくり。
- ・ 発想を変える。
- ・ 福祉にかかわる問題は多面に渡るので、必要に応じてかかわることが大事である。
- ・ 時代の変化にあった姿、なりわいがないとよい社会になれないと気づきました。
- ・ 「地域福祉」は奥が深すぎる！ 知り合う、顔を見せ合うことが大事！
- ・ 若い人の福祉(将来に対する不安)もよく聞いておくことがあるなと思った。
- ・ 組織のリフォーム・棚おろし、勉強になりました。リーダーシップをとってもらう為のNPOも新鮮でした。

#### 今日の感想

- ・ 転換期です。今こそ「学び」が必要ですね。
- ・ NPO やボランティアなど 個人や団体をつなぐことが大切であると思いました。
- ・ 地域は「人」、人をどう育てるか、地域福祉もそれに つきるかも。
- ・ 横のつながりをどうしたらうまくつなげるか。そこにたどり着くのが大変なようで、少しは近づけたような気がします。
- ・ 日頃考えていたことを聞いてもらったり、まとめていただき、スッキリしました。
- ・ 内容のある話し合いになったと思います。皆さん、かなり地に足つけた話ができた結果だと思います。
- ・ 地域福祉が現在抱えている課題は、ほとんど同じだなと感じました。一つ思ったことは、自分が主体的に「廿日市のために」かかわる必要あり！最後まで！

### 第3回のお知らせ

**目標： こんなことに取り組んでいかなければ！ のアイデアを考えよう！**

第2回では、まちの地域福祉に関する問題点を出しあい、それらの解決のために取り組むべきことについて話し合いました。第3回では、第2回の議論をベースに、「問題解決のための具体的な方法」について議論していきます。